

能美市辰口第一・辰口第二・根上地区工業用水道事業の紹介

○事業の主旨

能美市工業用水道事業は、平成17年2月の3町合併により、合併前の辰口町第一、第二工業用水道事業と合併時に創設した根上地区工業用水道事業の3事業で、いずれも手取川左岸扇状地の地下水の揚水量を規制する目的で事業が実施されてきたものである。

○事業の経緯

辰口第一工業用水道事業は、昭和48年に企業誘致により創設され、昭和49年6月より、給水能力一日最大35,000m³で給水を開始した。平成6年需要の増加に対応するため、給水能力10,000m³/日の増設を実施した。事業開始以来、32年が経過し、施設の老朽化が目立ち、平成14年度より順次、施設の更新を実施している。また、平成18年8月には、給水区域を拡張し給水能力1,500m³/日の増設を図っている。

また、辰口第二工業用水道事業は、昭和60年に企業誘致により、計画一日最大給水量30,000m³で創設され、昭和61年1月より、一部給水を開始し、現在17,500m³/日の能力である。建設時に計画予定の水需要が、その後、伸び悩み、給水開始初期の期間の累積欠損の発生となり、平成5年度に料金の改定を行った。以降、欠損が減少し、解消の方向に向かって推移している。

根上地区工業用水道事業は、日本海側に面した工場適地を給水区域とし、立地した企業に供給を行っている。従前から工場独自の地下水の揚水を行っていたが、過剰揚水による塩水化の発生や汲み上げ規制によって、代替水を上水道に求めたため、上水道が負担する工業用のウェイトが大きくなってきた。

合併前の根上町水道事業が工業用として、一日最大16,500m³の増設を行い、平成15年4月に完成した。この増設施設を合併時に上水道より分割し、根上地区工業用水道事業として創設した。

○ユーザーの概要

(辰口第一・第二)		(平成20年3月末現在)
業種	給水件数	契約水量 (m ³ /日)
化学	1	29,000
金属	1	500
電子	1	8,700
計	2	38,200

(根上地区)		
業種	給水件数	契約水量 (m ³ /月)
繊維	4	223,500
化学	1	12,500
金属	1	10,000
計	6	246,000

○工業用水道施設の概要

能美市の3工業用水道事業は、すべて地下水を水源とし、取水後、導水管にて配水池へ導水し、配水ポンプにて、各需要先へ供給している。

第一工業用水道事業では、11本の深井戸、導水管(φ600mm以下)3.0km、配水管(φ600mm)0.3km、(φ250mm)0.1km、第二工業用水道事業では、5本の深井戸、導水管(φ400mm以下)1.5km、配水管(φ600mm)1.9km、根上地区工業用水道事業では、6本の深井戸、導水管(φ450mm以下)2.9km、配水管(φ450mm以下)5.2kmが現有施設である。

○事業の特徴

能美市は、手取川扇状地(左岸)の扇頂部から、日本海に至る扇端部までに位置し、手取川伏流水の恵みを受け、水源をすべて地下水に依存している。

企業立地として、北陸先端科学技術大学院大学を核とした「いしかわサイエンスパーク」があり、他の岩内、粟生工業団地等の誘致企業は、大学を核とするネットワークの利用で研究開発を実現することができる。

○能美市辰口第一・辰口第二・根上地区工業用水道事業概要図

